

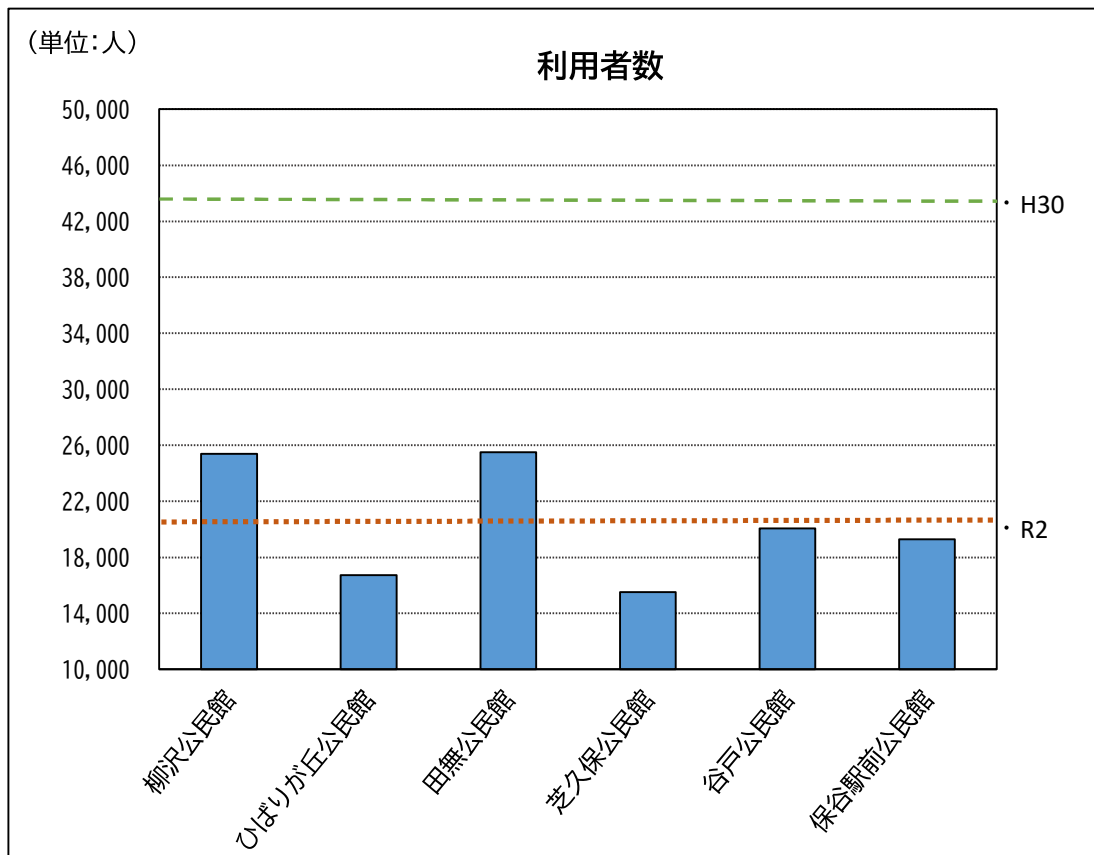
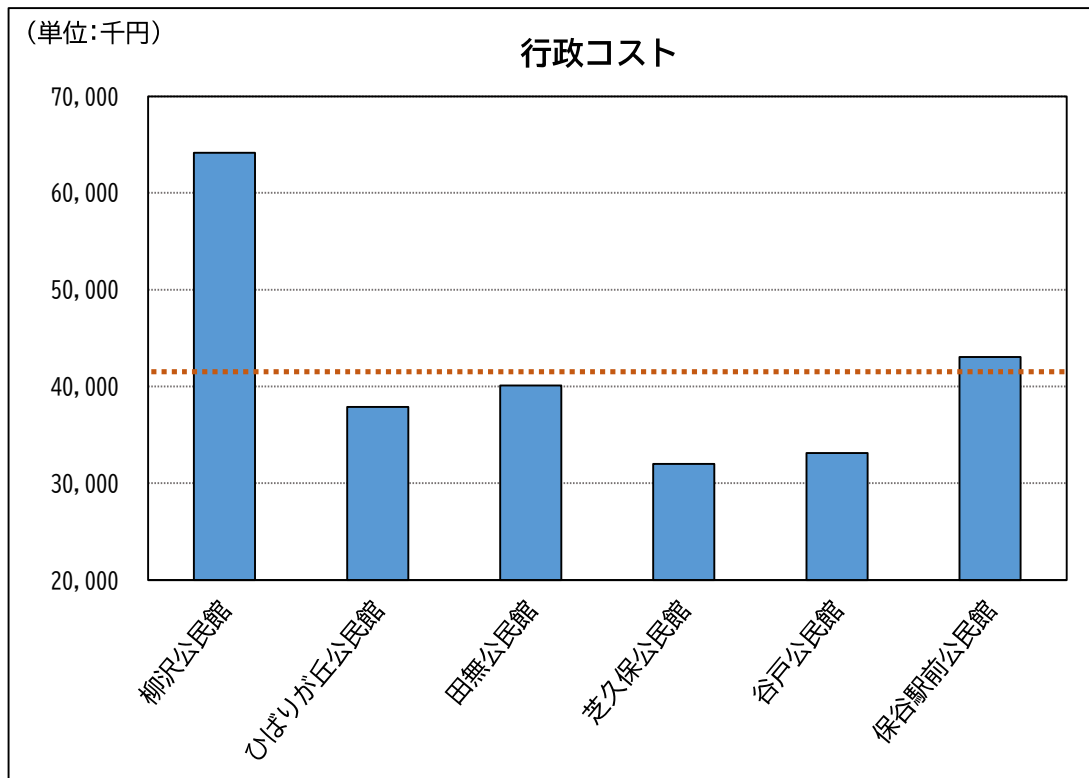
1 分析指標

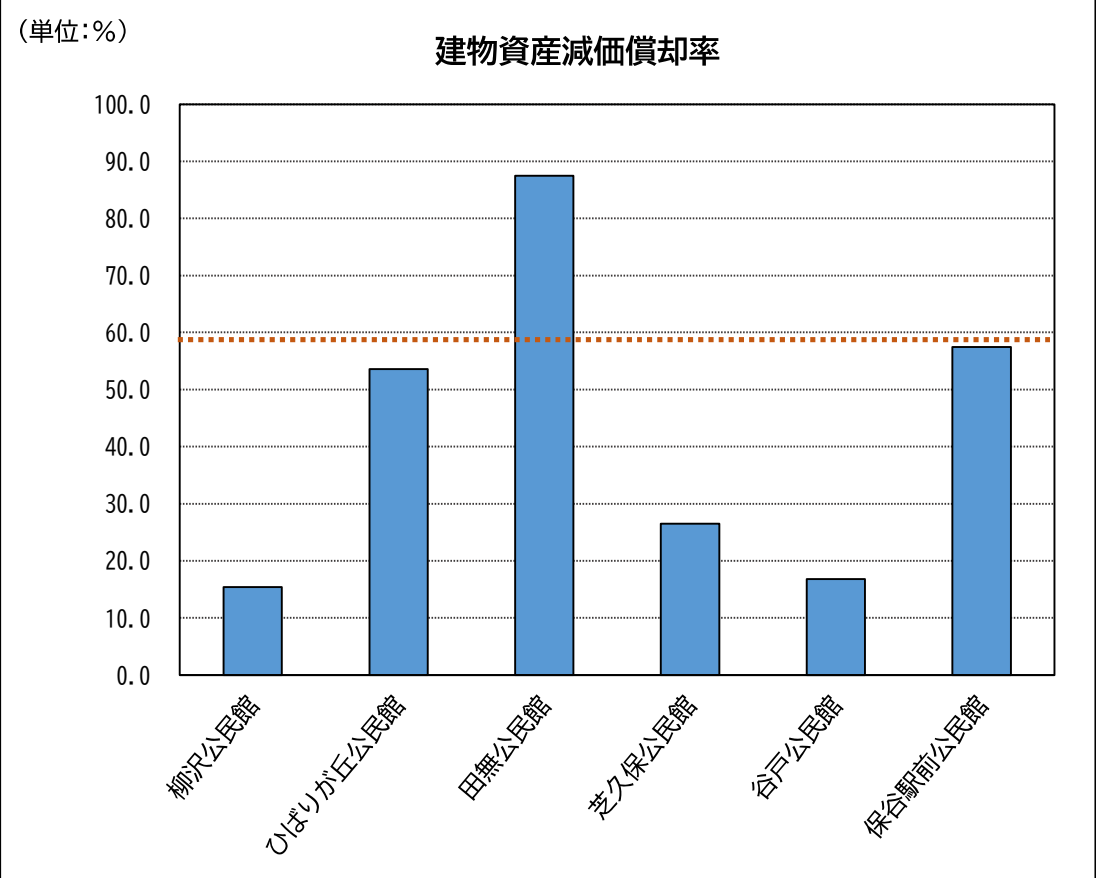
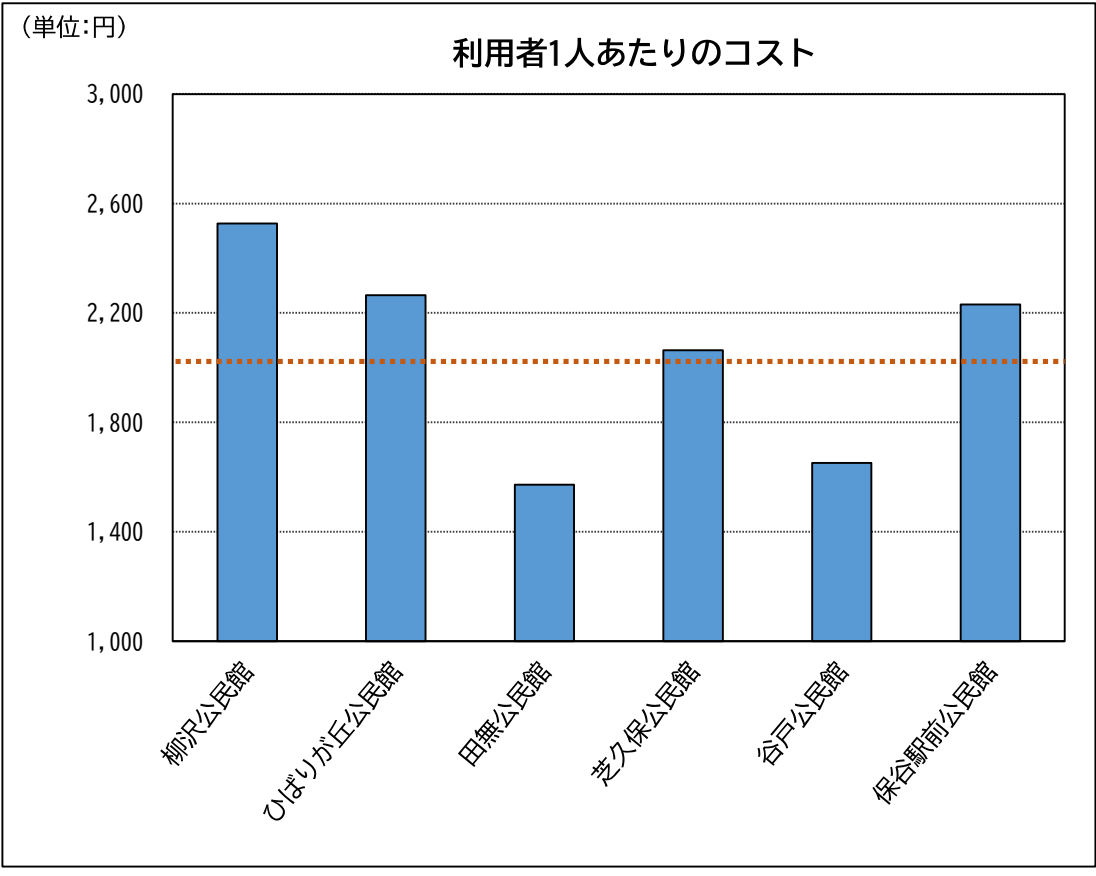
施設名称	柳沢公民館	ひばりが丘公民館	田無公民館	芝久保公民館	谷戸公民館	保谷駅前公民館
行政コスト (千円)	64,151	37,868	40,098	32,005	33,109	43,041
延床面積 (㎡)	1,204.00	900.08	1,241.00	974.36	1,007.00	764.12
1㎡あたりコスト (千円)	53	42	32	33	33	56
利用者数 (人)	25,389	16,727	25,513	15,514	20,044	19,296
(参考) 平成30年度利用者数 (人)	54,184	41,623	52,610	25,609	41,003	43,621
利用者1人あたりコスト (円)	2,527	2,264	1,572	2,063	1,652	2,231
利用件数(件)	2,989	2,238	3,334	2,357	2,503	2,758
建物資産減価償却率 (%)	15.4	53.6	87.5	26.5	16.8	57.4

施設名称	平均
行政コスト (千円)	41,712
延床面積 (㎡)	1,015.09
1㎡あたりコスト (千円)	42
利用者数 (人)	20,414
(参考) 平成30年度利用者数 (人)	43,108
利用者1人あたりコスト (円)	2,051
利用件数(件)	2,697
建物資産減価償却率 (%)	58.4

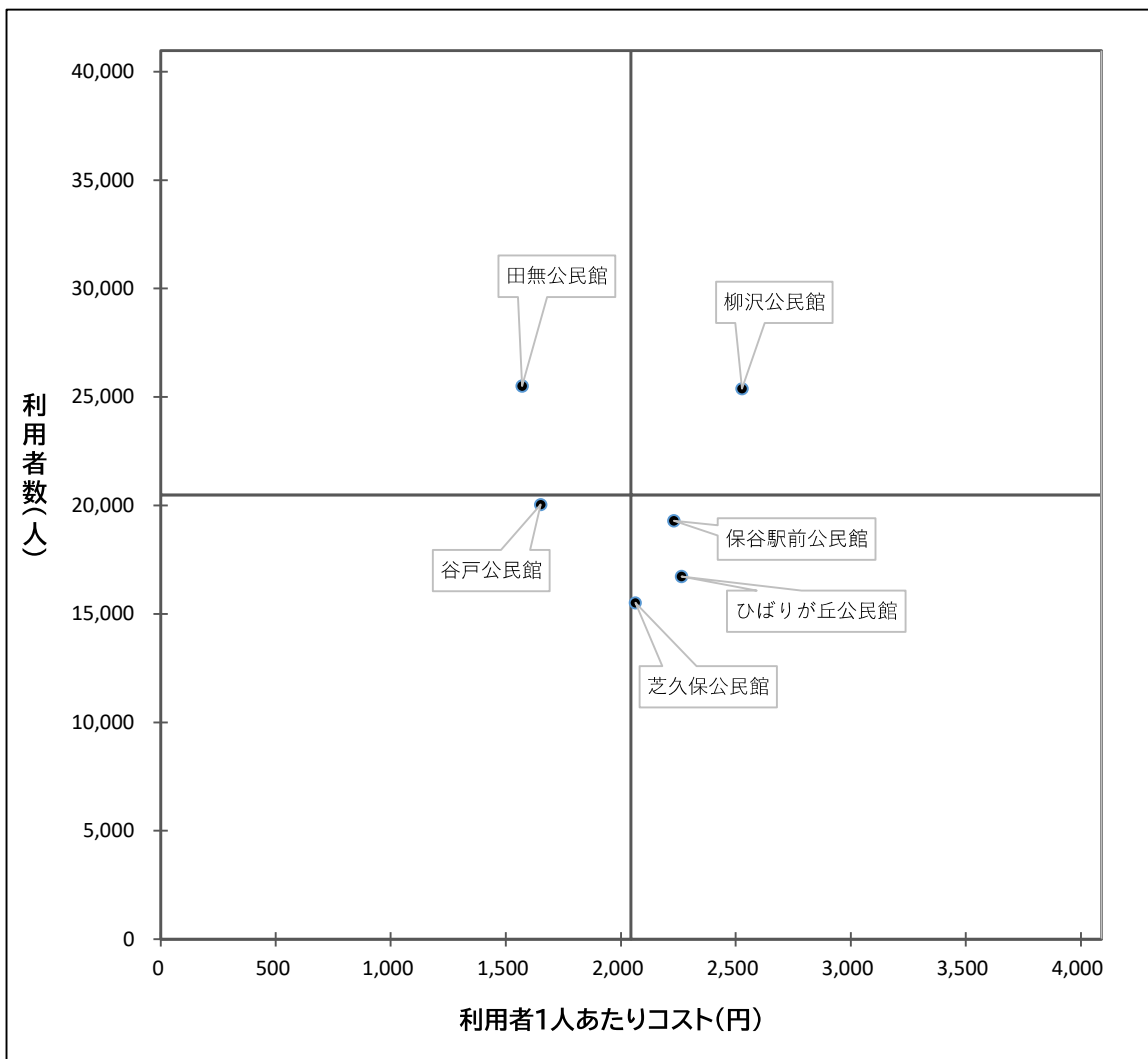
※柳沢公民館、ひばりが丘公民館、芝久保公民館、谷戸公民館は、都営住宅からの無償貸与によって運営している施設のため、施設建設時の工事費が発生しないことから、同時期に整備された他の施設と比べ、建物資産減価償却率が低くなっています。

2 グラフ分析





3 評価グラフ



4 評価グラフから見る主な分析

芝久保公民館	芝久保公民館は、市内西部地域に位置し、他の公民館と比較すると交通機関が不便なことなどから、他地域からの利用は少ないと考えられる。同規模の床面積の谷戸公民館との1㎡あたりコストの比較では、ほぼ同程度のため施設規模に見合ったコストの内容と言える。
柳沢公民館	本市の公民館は効率的運営を行うため、中央館分館方式を採用している。 柳沢公民館は、中央館の役割として、庶務的業務や調整等、全館にかかわる業務を担っている。そのため、他の館と比較すると正規職員を一定数多く配置しており、全館の運営管理費の大部分もコスト計上とすることから、同規模の延床面積の田無公民館と比較すると必然的に行政コストが高くなる。
保谷駅前公民館	保谷駅前公民館は、ステアビル全体の施設維持管理負担金や修繕積立金、壁面使用料など、東京都から無料で施設を借用している柳沢公民館や芝久保公民館等にはない経費を要する。その結果、利用者1人あたりのコストが高く示されている。

5 現状に対する施設所管課の総括

芝久保公民館	芝久保公民館は他の公民館と比較すると部屋の利用者は少ないが、放課後の子どものロビー利用など統計上の利用件数や利用者数には表れない利用も多く、子どもの居場所や地域の中の公共空間としての役割を果たしている。 近隣に公共施設が少ないことから、地域住民が訪れる地域密着型の貴重な施設である。改めて、この地域にどのような施設が必要であるか、どのような運用が考えられるかを検討する必要があると考える。 地理的要因から見ても、利用者数及び利用件数の増加は難しいため、社会教育施設としての役割を考慮しつつ、コスト削減を図る方法を行政コスト計算書を活用し検討する。
柳沢公民館	利用状況については、館ごとに部屋数や1日あたりの利用可能件数が異なるため、利用件数と利用者数の比較のみでは、施設の規模、機能・設備に応じた利用状況の比較が難しい。そのため詳細な利用状況の分析においては、館ごとの特性を踏まえる必要があると考える。柳沢公民館については、中央館としての特性を踏まえたうえで、その機能・役割を維持しつつ、利用状況の向上を図るとともに、コスト削減の方策を検討する。
保谷駅前公民館	利用者数は谷戸公民館と拮抗しており、利用件数は柳沢、田無に次いでいる。利用者数1人あたりのコストが平均より若干高くなっているため、区分所有者として管理組合と適切な建物の維持管理を維持しつつ、駅前の立地を生かした利用者の確保を検討する。

